

持続可能な社会の探究 I 国際関係と課題解決

公民科 北原 武

1. はじめに

本講座は、貧困や平和、人権に係るグローバル社会における諸課題が発生する背景・要因について考察し、その解決のための具体的方策について探究する活動を通じて、グローバルな視野と課題解決力を有する人材の育成を目指すことをねらいとしている。

本年度は、これまでと異なり、担当教員が特定の探究テーマに関して方向性を指し示すことはせず、あくまでも生徒自身が探究課題の設定・修正の試行錯誤を1年間繰り返す形をとった。さらに、全日本高校模擬国連大会や日経 STOCK リーグといった外部の大会・コンテストはあくまでも探究方法の1つという位置づけとし、それが目的とならないよう留意した。その理由は、探究活動をあくまでも自身の興味・関心に基づいて行なうことで、本講座における探究活動の経験を自身の進路選択（キャリア設定）に生かしてほしいと思ったからである。そうすることで、高校卒業後も含め、より長いスパンでの探究活動が可能になり、いわばライフワーク的に課題解決に取り組む人材を育成できるのではないかと考えたからである。

そのようなコンセプトの下、4・5月はあえてウェブを用いない文献研究期間とした。ここでは、手軽に切り取られた情報を集めるのではなく、書籍や論文をていねいに読みこなすことで、探究課題に関する基礎的知識をより幅広く構築することを目的とした。そのうえで6月に日本アイ・ビー・エム株式会社の職員、7月には株式会社リコーの社員を招聘し、グローバルリーダーシップや国際交渉、国際支援をテーマとする特別授業を実施した。複雑な国際関係の中でグローバルな社会課題の解決を目指す仕事に従事する有識者の知識・経験を生かし、生徒の知識・理解の補完、探究テーマや講師の研究・仕事の内容等に対する関心の醸成や深い考察を促した。また、本講座を履修する生徒の中には、将来国際的な仕事に就きたいと考えている者もあり、特別授業を通じて、生徒たちの進路選択やキャリア形成に当たって具体的なロールモデルの一端を提示することができたと考える。

さらに、2学期は、社会の第一線で活躍する民間企業の職員等による「社会をつくる、人、組織の思い」をテーマとするリレー講義を踏まえ、「自分の将来と社会をつくる、私の思い」をテーマにレポートを作成する「第17回日経エデュケーションチャレンジ」（日本経済新聞社主催）、「人権とジェンダー平等」をテーマにポジションペーパーや勉強会等で得た知識を基に各国代表の立場で議論を行う「第11回全日本高校模擬国連大会」（グローバル・クラスルーム日本委員会及び公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターによる共催）、経済や株式投資についての基礎的な知識を学習した上で、チームで議論して投資テーマを決定し、ポートフォリオを作成する

「第18回日経STOCKリーグ」(日本経済新聞社主催)を生徒に紹介し、自身の探究課題に対する1つのツールとなり得るのであればそうした企画を活用し、課題を解決するための方策など自分たちの探究の成果を他校の生徒や民間企業、国際機関等に対して発表・提言する機会とした。これらの大会等への参加を通して、生徒が期限を意識しながらグループ内で作業の分担・進捗管理を行い、異なる意見・価値観を持つ他者と議論や調査等を重ねながらプレゼンテーションの内容や成果物をまとめ上げていく学習経験を積むことで、他者と協働してより高度な課題探究を目指すことにつながっていった。また、他校の生徒の取組を直接見聞き議論する機会を提供することにより、生徒が自らのプレゼンテーション能力や論理的な思考力・論述力等における課題を発見し、探究活動の改善やさらなる質の向上を図るよう動機付けを行った。

本授業では、これから探究活動が始める1年生に、自身の探究成果と探究過程における成功体験や失敗体験を伝えることで、組織的に持続可能な社会の探究Ⅰの成果の質を向上させることとともに、2年生が自身の活動を振り返り、次年度必修である持続可能な社会の探究Ⅱにつなげることをねらいとした。

2. 対象生徒

第2学年「国際関係と課題解決」受講者20名

第1学年「国際関係と課題解決」次年度受講者18名

3. 実施及び生徒の様子

日時：3月10日(土)

午前の部 2年生「持続可能な社会の探究Ⅰ」(総合的な学習の時間)の各講座
代表生徒による成果発表

「Achieving Gender Equality in South Africa」

午後の部 各講座ごとに分かれての1・2年生交流学習

- ①本時の説明
- ②1・2年生交流学習
- ③ワークシートを用いた本時の振り返り



代表生徒によるプレゼンテーション



各グループでの1・2年生交流学習